彙報

史學研究會

例會　四月二十一日(土曜)午後一時半より樂友會館に於て開催、左の會員兩氏の講演あり、午後五時閉會。

上代古墳に關する二三の考察　梅原　末治氏

わが國の上代古墳に關する研究は德川時代に於ける陵制の研究は始く措き、主として明治以後東京帝室博物館を中心として行はれたが、その資料となつた遺物は多く出土の狀態が明でなく、從つてその遺跡とは別々に研究される外はなかつた。大正の初年日向西都原の古墳の發掘調査を一轉期として、主として濱田博士等によつて創められた新しい考古學はかゝる欠陷に對してまづ遺跡と遺物との綜合的研究を意圖し、就中富岡氏の古鏡に關する研究の成果を古墳の形式の研究に結びつけて所謂古式墳の時代の前後を定めることに努力した。かくて大正末年にはわが國に於ける古墳の二形式とその推定年代とはほゞ明にされた。然るに古墳に基く時代決定には、第一、古鏡そのものの移動と傳世が考へらるゝこと、第二、劍や石製品等他の伴出物が往々して無視されてゐることが反省されねばならぬ。要するに今後の古墳に出土品の分部が遺跡の全體に關係して考慮されねばならぬのであつて、それと同時に遺跡の存する全地域の完全なる調査からする系統觀が必要である。最近に於けるテエプロウコフのミヌチンスク地方に於ける限地調査の方法はわれ〳〵にも重要なる教示を與ふるものである。

唐代の社邑に就きて　那波　利貞氏

支那に於ける春秋二社の祭祀の特徴は(一)時代の高下場所の東西を問はず一般に其の祭は一日限なること(二)村鄕の民衆相會して奉賽するよりは民衆の集會といふことにあること(三)社飯酒肉を喫して一日を享樂し隣里の交誼を溫め餘興として種々の催物など爲すこと、(四)賽社燕樂の費用は其の必要額を醵出し祭祀終了して淸算すること、(五)特別の場合には此の機會を利用して一村一鄕の福利增進の策を議定したり公共事業を實行したり、敬老會を催したりすることにして要するに社神に恩德を感謝し鄕黨の親睦を計る一日限のものである。又所謂鄕飲酒の禮は主として鄕太夫が國中の賢者を優待する一種の集宴であるが、之は主催者が地方官で公的鄕黨親睦會の意をも含んで居る、然ば　春秋二社の祭祀の燕樂の方は私的鄕黨親睦の意を含みて自治的自由的解放的衆庶的鄕黨懇親の機構なるに對し、鄕飲酒禮の方は命令的强制的指導的敎育的鄕黨懇親の機構と謂へる。然るに唐宋時代の記錄には春秋二社の祭祀の社の字義を以て解し得ない社の字の使用法が類出して『夢粱錄』卷十九『武林舊事』卷三のそれ〳〵の社會の條、『西湖老人繁勝錄』の諸社の條などに見ゆるは餘程其の意義が異つて社稷の祭とは關係の無いものとなつて居る。翁てや鄕飲酒禮とは遙に隔てたるものたる

こと申す迄もない。私が佛國で見た燉煌文書の中に五十八種の社司轉帖があり其の中の一で登錄番號第參武武〇號には社邑と謂ふ文字が見えて居る。此の社邑は『全唐文』卷三十九の玄宗の『加應道尊號大赦文』に見ゆる閭閻之間例有私社皆殺生命以資宴集とある關係あるものと考へられる。此の社邑、邑社、又は單に社と稱するものは唐代に於ける民間の一種の組合で、春秋二社の祭祀の燕樂とも異なりて常設のものであつたらしく考へられる然らば之に所謂義邑、邑會ではないかと謂ふに、義邑、邑會は佛教信仰に基いて起され主として佛像製作の爲に組織されるもので、南北朝隋代に甚しく流行し、唐に入りて漸次大規模なる造像の風の行はれなくなつて衰へたものと謂はれるものであるのみならず、佛教信仰に基くものであるから玄宗の大赦文に見るが如き生命を殺して牛羊を以て宴會に資する私社、とは異なるものでなければならぬから、此の社邑、邑社は、義邑、邑會とは其の性質を異にするものであることが判知せられる、又勿論佛教々理研究を以て組織せられる法社とも異なるものである然らば少くとも中唐時代の記錄に現はるる社邑とは如何なる性質の組合であるかと謂ふに既存の史書には殆んど之を知るべき資料無く、獨り佛國に在る右五十八種の社司轉帖卽ち組合の同章に文によりて其の大體を知り得らるるのである。例せば卽ち第參六參六號紙背の文書にては乘安坊と謂ふ町内に一社邑が存し、其の社戸の吳懷實なる者が不都合の行爲を爲して其の社邑に物質的損害を與へたる爲、組合員が一致して之を責め、彼の兄を以て保證人とせしめたる立契が存し、第參武六六號紙背には逆延進なる者が或る社邑に加入して吉凶交際を爲して以て孤獨寂寥を慰め併せて自己修養を爲さむことを請へる入社願書があり、第參四八九號には或る町内の婢女が會合して一社邑を設立し規則を合議決定したと謂ふ極めて珍稀にして貴重なる社邑研究資料がある、此等の資料によりて歸納すれば、社邑とは町内に於て、又は或る關係者の一圈内に於て設立組織せられたる親睦機關であつて、相互扶助の目的をも加味し、義邑とは大に其の性質を異にせるのみならず春秋二社の會合燕集の如き一日限のものではなくして常設のものであることが知れる。而して社邑の組合員は之を社戸とも社子とも社人とも稱し、社人相互的には兄弟とも呼び、其の幹部は社長、社官、社老で之を三官と俗稱し書記役は錄事、小使役は虞候と稱した。五十八種の社邑文書の中には唯一種ではあるが第參武壹八號の如く僧侶のみによりて組織された社邑の存在を示して居るのもある。此の社長は決して明代に於ける地方の下級行政官たる社長ではなく、私設民間親睦組合の世話役頭たるに過きず『義山雜纂』に社長乘涼轎と謂つて笑はれる社長である。第參武武〇號紙背の立條立社の文によりて見ても社邑とは禮儀を厚くし尊卑の序を確立し同鄕同巷の人々、同仲間(職業的等にて)の人々が和爽協同して品性の陶冶を爲すを以て目的とせる私設民間組合で、地方官の指導などとは無關係なものであるのみならず、造像の爲とか、佛教宣揚の爲とか、講席開設の爲とかのものでもない。卽ち道德的修養と鄕

黨和合を以て本旨とし併せて物質的にも或る種の相互扶助をも爲さむとするものであるらしい。第參八八九號の社司轉帖の組合員の如きは大部分外國より支那へ歸化して燉煌地方に住んだ思とはれる人々又はその子孫と思はれるもので、大抵同じ樣な環境に生活せる者が相集りて一社邑を組織したるものらしく、第參七〇七號の社司轉帖には親情社轉帖とありて、社に名稱を有したるものもあるらしく、私の考據は主として燉煌文書ではるが既に玄宗の大赦文にも語る通であるから、曾に燉煌地方のあみならず、少くとも中唐晩唐にかけては支那全土に之が流行設立せられたることが知り得られる。結局社邑又は邑社とは、南北朝より唐初にかけて一般に特に北支那地方にて顯著に流行したる佛教信仰に基く義邑が、唐の半頃より諸種の原因より其の性質を變化し、之に古來の春秋二社の祭祀の風と合流して、社祭をも行ひ、茲に佛教信仰より少く離れたる性質の町内組合、民間親睦組合として特種の存在を爲せるものにして、之によりて一面に於ては唐以後義邑の名の出現が記錄上に於て漸次減少して其の後を審にすることが出來ぬと謂ふ從來の疑問も氷釋せられ得べく、他面に於ては鄕黨坊巷の民庶が漸く社會的に自覺して自治的ならむとする傾向の强くなりしことをも知ることが出來るのではないかと思はれる。義邑の性質の變化したと謂ふ方面のみより觀ても、本來は金品を醵集して造像を爲し併せて佛教弘通に努力すると謂ふ出世間的、信仰的のものより、組合員相互間の吉凶を慶弔し、祝賀金品、弔慰金品を醵出して、相互扶助を爲すと謂ふ風に極めて世間的なる一種の組合と爲つて來て居り、社祭の合流したる方面より見ても、古の單に一日を享樂懇親すると謂ふ古拙敦朴なる風より常設的なる一種の鄕黨坊巷民間の成人教育機關と謂ふ社會的のものとなつて來て居る樣に思はれる。これは要するに中世より近世へと世の中が變遷し庶民が擡頭するに際して、世相、風俗、思想、藝術等あらゆる方面に於て變化を生じたることの證據の一としても注目に値すべき一現象ではあるまいかと考へられる。これやがて南宋時代の『呂氏鄕約』の出現や、朱熹の『增損呂氏鄕約』の編著の方へ進歩する先驅を爲すものかと考へられる云々

例會　六月二十三日(土曜)午後一時半より樂友會館に於て左の講演あり、五時閉會。

西班牙繪畫に於ける文藝復興

須田國太郎氏

ルネサンス藝術には大體に於てドイツ、フランドル等北歐の流派と南歐イタリア流派のとの二つがあり、これが歐洲各地に於て入り亂れ、國々の藝術的傾向に從つて種々に交錯したが、イスパニアに於てはこの二派がうまく融合した。

イタリアルネサンスの藝術が古典藝術を目標として繪畫に於てはチマーブエ、ジョットー以來興隆したに對して、北歐にては古典の復興といふことよりもゴーテイクのマンネリズムに對して寫實主義の傾向現はれ、この寫實主義への徹底に力を注ぎ、有名なヴアンアイク兄弟等が出た。北方のものはその畫風細緻、

色彩鮮麗、實物に卽する傾向ある一方、敬度的、神秘的なるものを持つが、イタリアのものはより人間的にして明朗自由でかゝる點に南北の差異がある。イスパニアはこの二つの流派の影響をうけたがこれを如何に處理したか。

イスパニアはその位置、國民性等よりイタリアの影響をうけやすく東海岸地方はその影響をうけたが、內地の地方はポルトガル、ピレネーを通じて南佛、フランドル等の影響をうけたため錯綜した。東海岸カタロニア地方はイタリアの影響をうけ、ジョットーの畫風が入りバルセロナーはその中心で Ferrer Bassa 出でジョットー風を發揮した。これと共にシエナ派も入り、特にシモネ・マルチーニの影響は大で、以後ジョットー風よりもシエナ派の方が大なる感化を及した。

アラゴン地方に於てはカタロニアを經てイタリアの影響もあつたが、この地方にはブリユツセル、ケルンより多くの畫家來り、又その中ナヴアラ地方ではカルロス三世が多くの畫家、特にドイツ、フランドルの畫家を招いてゐること等この地方には北方の影響が強かつた。

次にヴアレンシアはイスパニア繪畫の一中心であつて看過し得ない。この地方にも北方的のものが入つてゐることは注目すべきことで、Luis Dalmau 出で、イスパニアに於て始めてヤン・ヴアン・アイクの畫風を傳へ、續いて Jacomart, Luis Alimbrot 等北方の形式を傳へた畫家が多數出でた。尙 Bartolomé Velmejo Alfonso 等偉大なる畫家も出でた。更にこの地方にはイタリアの影響もあり、Fernando Yañez de Almedina, Fernando de Llanos は共に驚くべき程レオナルド・ダ・ヴインチ風である。

南部アンダルシア地方は回教徒が長くゐたため基督教的繪畫の發達はおくれたが、フランドル、ドイツより多くの畫家來り宮廷畫家として重用されたり、やはりフランドルの影響が大であつた。要するに內地、南部、ポルトガル方面は北方系であり東部のみがイタリア系であつたと云へる。

しからばこの二流派が如何に融合したかはイスパニアルネサンス繪畫の重要問題であるが、この二つが結合してそこにイスパニア的なるものを生み出したのである。Luis de Morales はその代表者の一人で、彼はイタリア系統のものとフランドル系統のものを融合した大家で最もイスパニア的の人であつた。イスパニアルネサンス畫家の態度は決して創造的のものではなくイタリア、ドイツ、フランドル等の影響をうけそれを融和してイスパニア的のものを生み出す消極的のものであつた。

天保時代の百姓一揆

黑正　巖氏

私は豫てより德川時代に頻發せる百姓一揆に興味を有ち、一々當時の正確なる記錄に基いて之が原因とその性質とを究明せんことを志し、昭和三年、その時までに蒐めえた總計五七七件の事例によつて一書を著はし、百姓一揆はその結果よりすれば德川氏の封建的秩序を破壞するものとなつたが、その動機の中には決して革命的なるものを有してはゐなかつたことを論斷した。然るにその後この說に對しては、一部の人々の反對があり

一揆は本來革命運動と見らるべきものであるとの主張がなされた。それで私は更にその後なほ多くの資料を蒐集することに努め、それらの新事例の上に自己の所説の當否を檢し、且はそれに基いて嚮の研究の不備をも補正せんことを期したが、今日までに蒐めえた九二四件に就いて見るところ依然として前説の、その主旨に於て改むべき理由なきことを知つた。今それらの詳細を述べることは出來ないが、姑く德川時代を通じて最も件數の多かつた天保年間に限つてその時代の一揆の特性を明にしたいと思ふ。

天保十二年間には總計一二二件の一揆を數へることが出來るが、その何によつてかく頻繁に起らなければならなかつたか、それには一般的原因の外に從來人のあまり注意しなかつたことゝして將軍家齊がその五十一人の多數に上る子女を然るべき地位に配する爲に執つた施政が自ら封建的統制を亂すことゝなつたことを考へたい。所謂一般的原因としては、一、天災凶作二、運上の加徵幣制の改廢、專賣制の施行、三、役人の失政の三つを數へることが出來るが、天保ころに於ては單なる凶作といふよりはそれによつて高値であることが主たる原因であり、それが爲に一揆の對象となるものは多く富豪であり、その樣態は打こはしであつた。また運上や專賣その他の問題も常に役人の失政と相俟つて、その機因となつたのであつて、且つ古くは村役人が率先して一揆を率ゐたに反し、今や村役人自身が一揆の對象となつたところに封建的機構の變質を思はしめるものがある。なほ一二二件中特に注意すべきものは八年の大鹽の亂と十一年の出羽庄内に於ける移封反對の一揆である。前者は事件そのものゝ比較的簡單なりしかゝはらず、その思想的影響の廣大なりしこと、殊に下級武士等への感化の大なりしことに於て、また後者は嚮に述べた家齊の施政と關係することであるが、その一揆によつて一度定つた幕府の政令を徹回せしめ、將軍の威信を失墜せしめる一機緣となつたことに於て、一般歴史の上に於ても大いなる意義を有する。

◉東洋史談話會記事

東洋史懇親會　五月五日(土)午後六時より
河原町三條上る鳥初にて開催、出席者宮崎講師以下十七名

第二十八回例會　五月二十四日(木)午後六時半より
於　樂友會館第一號室　出席者那波助教授以下三十三名
一、唐代貴族の家訓　宇都宮清吉氏
一、魏の遺像に就いて　塚本　善隆氏

第三十九回例會　六月十二日(火)午後六時半より
於　學生集會所乾室　出席者二十二名
一、金の世宗論　三回生　佐伯　富君
一、北狄開國傳説考　三回生　宮川　尚志君
一、右談話に關する批評感想　並ニ滿洲聖人達海の墓に就いて　鶯　淵　講師

◉支那學會大會

六月十六日土曜午後一時半より東方文化學院京都研究所講堂

にて開催。小雨模様であつたが京阪神地方の會員多數來會して非常な盛會であつた。

一、大明地理圖に就て

宮崎　市定氏

最近名古屋の書店から支那の古地圖を得たが其後之と同樣のものが京都帝國大學附屬圖書館、同地理學教室、京都府立圖書館及び伊勢の神宮文庫にもあつて大明省圖などの名をもつてゐることがわかつた。其の製作年代は承天、興都などの地名があることからほゞ嘉靖頃で、支那で作られて禪宗の僧侶か何かによつて傳へられたものらしい。地圖の樣式は明初の渾疆理歷代國都之圖、(大谷伯藏)及び後の康熙頃の大明九邊萬國人跡路程圖、歷代事跡圖などと密接な關係がある。一體支那の地圖は一度正確なのが出來るとそれ以後はそれを模し、時代が下るとゝもに不正確になる傾向があるが、此の地圖なども唐の賈耽の作といはるゝ禹跡圖や元の朱思本の地圖と緯度、經度から比較してみてよほど不正確である。然しながら社會的には此の系統のものが頗る勢力があつたらしく、當時の日本及び西洋の地圖は何れもこれをまねて作つてゐることを論ぜられる。

一、閒喜縣の方言

倉石武四郎氏

支那留學中昭和四年山西地方を旅行中閒喜、翼城の地で北京音と非常に違つた發音に遭遇したが幸ひ、その地で得た閒喜縣志を見ると珍らしくも方言の部門があり、特に注意すべきは語根語尾のngが「ウ」と發音されることである。例へば唐の音が「タウ」である如きである。日本語で當、刀は何れも同じ發音「トウ」であり「ウ」は北京音のngを寫したものといはれてゐるが、もとは何れも「トウ」の如く發音され、齊滿の如きも今の北京音では違ふが、もとは同じであらうと論じ、次いで山西省は北、南、東の三方から文化の影響を受けて三つの文化圏に分たれ、この閒喜縣は丁度此の交流點に當るのでかゝる特殊な方言が生れたのであらうと述べられた。終に今後支那の各地方を分擔して組織的に且つ互ひに連絡をとりつゝ研究を進めて行けば舊來の偏重の風が是正され、刮目すべき結果が得らるゝであらうと將來支那學の進むべき方向を示さる。

三、支那哲學に於ける呪術性

小島　祐馬氏

支那哲學の特色は天道と人道の一致から出發し、人が天地の現象に參加し得ることを論ずる點にあり、この思想は早く洪範の庶徴、休徴、咎徴にあらはれてゐるが、漢代になると此の洪範の思想は二派に分れ、一は災異派、一は春秋繁露にあらはれた人間を小宇宙と考へるものになつた。一は超人間的なものを媒介として人間が自然に作用するとし、一は直接に人間が自然に作用するとするのであるから、前者を宗教的、後者を哲學的とすることが出來るであらう。而して、この洪範に始まる思想はその起源を呪術に發するものであることを論ぜらる。

講演終了後晩餐會あり盛會裡に本大會を終つた。(北山)

◉地理學談話會

六月七日(木曜日)午後二時より地理學實習室に於て本學期最

初の研究報告會を開催した。助教授小牧實繁氏、先輩中野竹四郎氏、田中秀作氏を始め多數の出席をみて盛會であつた。尙當日の報告者、題目、及びその要旨を略記する。

一、本邦米作に就ての二、三の考察　　村本　達郎

本邦に於ける米作のもつ重要性を、我國の地理的條件、米そのものゝ食糧品としての價値より說き、米作技術の世界に冠たるものゝあるのは、傳統的な力による事が大であるとし、我國の如く必然的に集約的農業にならなければならない處では、生熟期間の比較的短い稻は有利である。更に、食糧問題の解決のためにも二期作が行はるべきで、將來に於ける二期作可能地域として關東以西の表日本、及山陰地方の平坦部を指摘した。

二、等時線圖の作圖上の諸問題　　織田　武雄

等時線圖の基圖は交通地圖であり、縮尺の一般的限度は大體五〇萬分の一の程度を以て適當とする。投影法は正積若くは正主距投影法に依る可きである。時間距離は公の交通機關の最速のものに依るべきであつて、平均値は水上交通以外に用ふべきでない。また頻繁度を加へた平均値は大都市近郊交通のみに限らるべきである。等時線の描圖法は、鐵道等時線圖の場合に於ては、各驛がそれぞれ又二次的の中心地として選ばれる。但しそれは縮尺に關係するが故に小縮尺の場合にはゼネラリゼーションを施す必要がある。

三、大津京條坊に就て　　米倉　二郎

先づ從來の研究の經過を述べ、大津京趾として御所內說、蟻內說、南滋賀說の三說あることを擧げて後、滋賀郡の條里を復原して、之れと京趾との關係より御所內說に加擔し、次に御所內を中心として條里とは異なれる間隔をもつ道路組織の存在する事に論及し、之を以て大津京の條坊に比定した。尙この講演は歷史と地理七月號に發表されたから有志者は參看されたい。

（大稿）

●西洋史讀書會

例會　五月十日午後五時半より樂友會館に於て開催

今回は二回生歡迎の意味をも兼ね、先づ一同晩餐を共にし席上自己紹介を行ふ。終つて第一號室に於て左の本年度卒業生諸氏の卒業論文に關する講演ありて後散會。出席者、時野谷教授鈴木講師を始め二十八名。

講演者

文學士　蛇口　三郎氏
文學士　堀　雄夫氏
文學士　中山　治一氏
文學士　寺田　善次氏
文學士　山內　嘉夫氏

例會　六月十四日午後六時半樂友會館第六號室に於て開催、左の二君の讀書紹介ありて十時前散會。出席者、時野谷、原兩教授、鈴木、岡島兩講師を始め二十八名

Calvinism に就いて　　三回生　築山　弘君
Ranke; Die Römischen Päpste. Erster Bd.　　二回生　山口　丹海君

◉國史學會春季大會

昨年主として京都大學に於ける國史專攻の大學院學生を中心に、その研究成果の發展機關として生れた國史學會の本年度春季大會は去五月五日(土)午後一時より京都大學樂友會館講堂に於て催された。當日の研究發表並講演の概要は左の通りである

洋學者の歷史思想　　文學士　宮內　信美氏

主として山片蟠桃、本田利明の兩人に就てその歷史思想を窺ふに彼等はなほ種々なる點に於て舊來の儒教的史觀に捕はれてゐたが自らまた明治以後發展すべき新しき批評的立場に立つて歷史を解釋しようとしてゐた跡も見受けられる。

神の言語と人の行爲　　文學士　勝谷　透氏

古代に於て神の言語としての神話は人の行爲の保證としてあり、それは世界の存在に先つて存するロゴスであり、國土の成立に先行する歷史である。從つて神話は行爲や儀禮によつて說明せらるべきでなく、それ自ら理解されなければならぬ。宣る祈る、知る、占む、數く等の言葉の意味はかゝる立場に於て解釋される。

座に就て　　文學士　澤井　浩三氏

中世に於ける各種の商業の座が如何にしてその特權を獲得するに至つたかを明にする爲には、その一つ前の段階として神役奉仕を義務とする地域的封鎖的なる宮座のあつたことを考へねばならない。多賀社の氏座及び郡座はその點について興味ある例證を提供するものである。

我上代の溫泉に就て　　文學士　佐藤　虎雄氏

日本書紀、和名抄その他の古書に見ゆる溫泉を列擧してその所在を考證し、その多くに天皇行幸、貴顯入湯の跡を偲び社寺との關係を尋ねて、上代に於ける溫泉神聖視の觀念とそれにもとづく療病の事蹟を考へた。

禁野に就て　　文學士　岸本　準二氏

令制によれば口分田として班給せられる田地の他に山川林野は共有地として入會になつてゐたが、特に皇室に屬するものは禁野として後まで存續した。河內の禁野はその一である。

歷史に於ける過渡期　　文學士　住友吉右衞門氏

歷史に於けるいづれの時代も過渡期ならぬはなき中に特に過渡期と名づくべき時代の性格は何であるかわが國史上に於ける各時代に就いて考察したい。

後醍醐天皇の宸影に就て　　出雲路通次郎氏

(次號にその全文掲載せらるべき筈につき略す)

南朝と淡輪及び小山氏　　文學博士　西田直二郎氏

南北朝時代は國家意識の昂揚せる時代なると共に社會生活の內部に於ては舊來の氏族的なるものが分離崩壞して新なる豪族の起り來る時である。而してその豪族には自ら一つの型がありかつその興り來る因由には Geopolitik 的なものが見られる。

和泉の淡輪氏、紀伊の小山氏の如きもその一であつて、その地方の自然的な條件の中に起り來つて、南朝に仕へ、近隣の北方諸豪と戰を交へたが時代の下ると共にまた北朝にも仕へ常に中央勢力の交替の間に處してその家を全うせんとした。特に小山氏が紀州海上に雄飛したことは興味多いことである。

尙、當日は右の講演に關係して淡輪文書及小山文書の外、駿河伊達文書、斑鳥文書、齒長寺緣起、並に大德寺藏後醍醐天皇宸影(摸本)曼殊院藏歷代御影及各種裝束切地等が陳列せられ、一般來聽者の觀覽に供せられた、聽衆約百五十名盛會であつたなほまた、右閉會後有志は晩餐を共にし、席上中村直勝、牧健二、寺尾宏二、梅原末治、三品彰英氏、藤井駿氏並時野谷勝氏等の座談を聽いた。

●讀史會

例會 五月二十九日(火)午後六時半より樂友會館階上第一號室に於て開催。出席者西田教授、源講師以下三十名。十時閉會。

一、上代に於ける美意識の開展　茂川　眞澄氏

一、貞觀美術の樣式の源流　源　豐宗氏

●京都帝國大學國史學科學生

春期見學旅行記

上諏訪—甲府—東京—謙倉

五月十一日(金)

細雨煙る中を京都驛に集合せる一行十六名は中村、藤兩先生指導の下に午後七時名古屋行列車にて出發し、十一時名古屋着中央線長野行に乘換へる。夜更けて雨は猶止まず明日の旅路を氣遣ひつゝ車中に假寢した。

五月十二日(土)

午前四時二十八分鹽尻に着し、甲府行に乘換へて三十六分發五時三十八分上諏訪に下車して成田屋旅館に赴き、此處にて前夜より先着して居られた西田教授にお遇ひし、一同温泉に入浴朝食をとり小憩の後午前八時立出でバスを利して見學を開始する。高島城、浮城の名の如く天正年間諏訪湖の一部を埋立てゝ築く所で德川時代諏訪氏三萬石の城地として榮えたが今は石垣のみを留め遊園地と化してゐる。このあたり、武田氏信州經略に當つて斃された諏訪氏、その先は健御名方神に出で代々諏訪上宮の祠官家としてありつゝ、中世以降兵馬を兼帶して伊那、諏訪二郡を領して武名を輝かした氏族の盤踞せし地である。天守臺址に立てば湖邊をよろふ遠山には雨雲垂れてそれと見えぬが脚下に漫々たる鷲湖の水とそれをめぐる諏訪盆地が一望の中に入り來る形勝の地である。

諏訪上社。城址を去り途中教念寺を訪ふも國寶羅漢像は東都の國寶展覽會に出陳せらる由にて空しく、直ちにバスを走らせて諏訪上社本宮を訪れる。社は赤石山系の守屋山々麓幽邃の地を占めて、亭々たる千年の老樹は天を摩して森嚴の氣忽ち身に迫る裡に先づ眼に入るは「御柱」である。高き白木の柱の柱面に

荒く彫り込まれて居る二線の交叉せる紋様の連る怪奇の相は最早吾々の心では解き得ぬ古き世界の殘存である。是は七年毎に御柱祭を營み、社の四隅の柱を立替へる特殊の神事で、諏訪一郡の祭祀として既に知られてゐる。此の祭の初めは、坂上田村麿の東征後、報賽の爲、奏上して行つた、との傳説がある。後戰國の世には、一旦絶えたのを、永祿八年、武田信玄に依つて復舊された、と聞くにも當社が、武神として、武將の信仰に結びついてゐるのが窺はれる。また、武神としての當社尊崇の有樣は、繪馬堂の中に夥しく掲げられた軍船、刀劍の扁額、或は現在も新らしく立てられてゐる戰勝祈願の旗幟にも肯かれる。勅使殿、大國主社、天滴井戸、御竈等夫々由緒に富む建物を左右に見つゝ、塀重門より拜所に入り、瑞籬より内に進み、恭しく神前にて拜し、終つて神社の由緒、故實などを聞く、正面の拜殿は、德川期の再建にかゝるが、欄間の彫刻にその特色を見左手の四足門は、慶長年中の造營、其の左右にある東西の兩寶殿は、妻に見る簡單な破風板が、直ちに屋根を貫き高く出でゐて千木を構成せる形は神明造の原始的な形式を示してゐる點が注目に値する。拜殿の後には神殿がなく鬱蒼たる山林を以て神座として居るが、此の樣式は今日琉球の神社に於て恒に見られるが、内地では健御名方神の御父で、同じく出雲神族の大國主神を祀る大和の大神神社に於て見られるものであるのも興味多いものと思はれた。境内の寶物館には數十口の刀劍を始め唐鏡、銅燈籠、印璽等を藏し文書も亦見る可きものに乏しくない。

一、後奈良天皇御消息　一通
天文二十二年八月の女房奉書にして天皇が萬民和樂、國土安穩の御祈願を籠め給へる宸筆の般若心經一卷及び諏訪大明神の神號に添へて奉納されたるもの
一、武田晴信定書　數通
永祿八年十二月諏訪上宮祭祀の退轉を舊規により再營復舊するに關するもの等。
一、大宮御造營目錄古寫　一卷
奥に嘉曆四年己巳三月　相模守平朝臣高時とあり
一、官幣大社諏訪神社上社幣帛送文　一通
一、式年御柱騎馬行列圖　一幅
此の外見る可きものは少くないが既にして時刻は迫りし爲心を殘しつゝ辭去し車を茅野驛に急がす。宮川村を過ぎる時綠濃き右手の山間に、后神八坂刀賣神を祀れる諏訪上社前宮の甍を拜し、又諏訪大祝の家も此の邊りに在ると聞くが立寄る暇はなく十時十五分茅野驛を發し甲府に向つた。(稻葉)

午前十時十五分茅野驛發の列車にて、午後零時三分甲府驛に着いた。此の街では僅か三時間半位で所々に散在する社寺を見學せればならぬので、非常に忙しかつた。

武田神社　驛の北、二粁半ばかりの武田神社に行つた。これは相川村躑躅ヶ崎館跡にある。武田信虎が永正十六年に躑躅ヶ崎に築いたと云ふ武田古城は今は無いが、土塁、塹壕、石垣などは殘り、當時の面影が忍ばれる。この神社は武田晴信公

を祭つたもので、大正八年の創建に係り、例祭日は四月十二日である。當社にて見學したものの主なものは、

一、厨子入り將軍大黑木像

（之は厨子全體の高さ七寸八分、木像の高さ四寸三分、扉裏面には右方に「大願成就」左方に「永祿□甲子年晴信（花押）」とあるが漸くにして讀まれるもの、

一、武田信玄書狀　一通　（二月十五日）

一、足利義昭御內書　一通　（九月十四日）

一、一色義棟書狀　一通　（惠林寺宛のもの）

一、北條氏政書狀　一通　（十月四日）

の文書があり、其他、示されたものには

一、武田信玄運氣の書全部　一册

一、傳來武田信玄公所持の軍扇

一、後奈良天皇綸旨　一通

（天文十六年二月十七日附、左中將（花押）武田大膳太夫殿　とあるもの）

一、御旗本備押之圖　一册

（之は表に繪、裏に人名のあるもの、奥に靑州文庫の印があつた）

等あつたが、深く研究することを得なかつた。この他、國寶の太刀は天候のため拜觀は出來なかつた。今迄、危い雲脚であつた天氣は、武田神社を辭去する頃から愈降り出した。

大泉寺　武田信虎の墓を靈屋の裏に見學した。五輪塔で、高さ一米半ばかりのものである。

長禪寺　開山は夢窓國師である。宏大な寺域は嘗ての規模を想はすに足るが今は荒廢して寺寶を殆ど散佚せる由であつた。同寺にて示されたものは

一、傳武田信玄愛甔の木馬

一、玄公御持佛蠟石釋迦如來

一、開山傳法衣

善光寺　之は元來永祿年間に武田氏が信州善光寺に模して作つた寺である。然し、今の本堂は天明年間の再建にかゝり、七間十一面重層入母屋造で、正面及左右兩側に向拜を附した大建築である什寶としては次のものがあつた。

一、本堂阿彌陀三尊

一、國寶阿彌陀如來坐像二軀　（高さ六尺位のもの）

一、兩脇日光月光菩薩立像

一、源賞朝頼朝公の木像　其他

一蓮寺　之は山梨縣下第一の時宗の古刹である。同寺の所傳により見學したものゝ目錄を列擧すれば、

一、東山天皇御親筆（「稻久山一條道場」と書し給ふたもの）

一、後醍醐天皇勅額（「一蓮寺」と書し給ふたもの）

一、武田信玄筆　彩色渡唐天神　一軸

一、過去帖　一册

（應永三年の頃のもの、寛永七年位まであり）

一、天正十八年起請文　一通

（四月二十五日の血判、九筋百姓中宛、熊野起請紙を使ふ）

一、天正十年十一月家康の朱印狀寫し　一通

雨中を急ぎ甲府驛に歸還し、午後五時四分發の列車で東京に向つた。（原田）

雨に昏れた午後八時半一行は新宿驛に第一歩を印した。在京諸先輩史學大會のため上京中の先輩達の御迎へを忝けなくしそぼ降る雨の中を神宮外苑なる日本青年館に車を走らせた。部屋に休憩の暇もなく食堂にて在京先輩の歡迎會が催された。長い卓をかこんで先づ先輩達の自己紹介に會ははじめられ、一見して舊知のごときしたしさを感じ先輩の話しに耳をかたむけた時間がたらないので我々はたゞ自己の出身校と姓名を述べるのみにとゞめた。十時名殘をしくも會を閉ぢ旅の疲勞を湯に流して寢についた。

五月十三日（日）

午前六時麻布聯隊の起床ラッパに我等の夢は破られた昨夜來の雨は一層しげくなり風さへ加はつてゐる。が豫定に從ひ午前九時丸ノ内なる日本工業倶樂部に向ふ。此處で史學大會第二日目の諸家の什寶の展觀を見學する事になつてゐるためである。車中雨煙の模糊としてゐる大内山を拜して會場にいそいだ。

諸家什寶展觀　黑板博士の御好意により四階の別室にて茶菓の饗應をうけつゝ開場時間をまつた。第一室には伊勢物語古抄本神皇正統記斷簡、道風繼色紙其他十三點を興深く觀覽し第二室にては光悅卷物三卷光悅屏風半雙が出品されてゐた。次の行程のある我々はおつかけられてゐる如き思ひで工業倶樂部を辭した。

國寶重要美術品展覽會　雨は猶やまず今日一日ふりつゞけるらしい。上野公園のアスファルト道をすぎて車は府立美術館の前に停つた。此處では報知新聞主催で皇太子殿下の御降誕を奉祝する國寶重要美術品繪畫會が開催されてゐる。會場に入らうとする時、秩父宮殿下、同妃殿下の御歸還せらるゝを御送り申し、後會場に入つた、會場は雨天にも關らず入場者滿ちあふれる有樣に驚異の眼を瞠つた。此の多數の群衆をわけて數百餘點にわたる國寶繪畫を少時間に見て行かうとするのだから我々の努力たるや又大變なものである。しかし斯く多數の名品を一堂に蒐めて觀覽に供せらるゝ企てに對し感謝の念を抱かされた。此處だけで一日欲しいとは私だけではあるまい。こんなことを考へながらとにかく全部を超スピードで觀覽して出口に出た。

一時すぎ美術館を辭し東京驛に車を馳らせた。（小田）

東京での見學時間が延びたので、北鎌倉驛下車の時は既に三時である。雨も漸く止み雲行のあはたゞしい暗い空の下を大急ぎで廻つたが、見學の時間が極端に少くなつてしまつたのは殘念であつた。

圓覺寺　先づ雨に洗はれて美しい新綠の圓覺寺の境内を少し登つて舍利殿と時宗坐禪の開山塔とを見る。舍利殿は花頭窓と勾欄に特色があり、屋根が大きく勾配が急である。内外素木のまゝであり裝飾は殆んど無く、その素朴にしてしかも洒脫の趣の

ある處が如何にも鎌倉らしく思はれた。

建長寺　圓覺寺から鎌倉五山の第一の建長寺迄歩く。この鎌倉では小さな谷が不規則に入り込んで一寸見ても甚だ複雜な地形を呈し、歩いて居るとそれがよく判る。建長寺で拜見したものは大體昨秋の旅行の際に見られたものと同じである。それを列擧すると

再來庵修造再興勸進狀。

（當寺の由來を述べ再興を勸進す。奥書に永正丙子四月二十四日祖師忌日、勸進化士惟善謹狀とあり）

紙本墨書和漢年代記三册。（内元祿寫本一册）　法語規則掛軸二幅、開山道隆筆。開山祖師肖像一幅。

尙境内に建長七年の銘のある洪鐘を見學して當時を偲んだ。

鶴岡八幡宮建長寺は興味あるものが多かつたが、殘念ながら先を急ぎ小袋坂を經て鶴岡八幡宮に向ふ。八幡宮は華麗ではあるがその極彩色は却つて厭ふ程であり、大銀杏に昔を偲ぶには餘りに整然として居る。

源頼朝公墓　寶物館は時刻が遲く拜觀出來ぬと云ふので、八幡前からバスで頼朝の墓に至る。墓は法華堂址の小高い木も石も土も苔蒸した靜かな所にあるが、征夷大將軍頼朝の墓所としては豫期に反するほど極めて質素で、その時代の風をさへ思はせるものがある。

鎌倉宮　續いて大藏幕府址のあたりを指示しつゝ鎌倉宮に參拜し、護良親王を幽閉し奉つたと傳ふる所の土牢を拜し、なほ陳列の社寶を拜觀したが此處でも時間が迫るので直ちに自動車で長谷に赴いた。

鎌倉大佛　この時既にあたりの山々は雨雲うごき暮色に包まれて反つて御佛の印象を深めるものがあつた。胎内をくゞるなどに旅の終りの少時を樂しみ、それから愈々最後に長谷寺觀音へ行つたが閉つて居るので外から拜む。時に七時を過ぎてゐた忙しいながらも幸ひ僅少の時間に鎌倉を一巡し得た事を喜びつゝ鎌倉驛に到着、遲い然しゆつくりとした夕食に旅の終りを思つた。

午後八時二十三分鎌倉を辭し、同八時三十分大船發急行列車に乘り、十四日(日曜)午前六時二十分京都驛に到着、解散した

（村松）

◉京都帝國大學文學部本學年講義題目

國史

普通	西田教授	國史概説(第一部)		(毎週)二
	中村(直)助教授	國史概説(第二部)		二
特殊	西田教授	近世文化と都市生活史料研究		一
	喜田講師	蝦夷の研究		一
	藤講師	鎌倉時代史		(一五)二
	辻講師	日本佛教と政治との關係		(二〇)
	魚澄講師	室町時代初期の特殊問題		二
	大塚講師	明治維新史		(三〇)

出雲路	講師	有職故實	二
演習 西田	教授	日本思想史の問題	二

東洋史

普通 羽田	教授	東洋史概説(第一部)	二
那波	助教授	東洋史概説(第二部)	二
特殊 羽田	教授	東西交通史	二
那波	助教授	唐代の庶民生活	二
梅原	助教授	東亞考古學	二
鷲澤	講師	清朝興起史(第一、二學期)(四〇)	
宮崎	講師	王安石の新法	二
加藤	講師	唐宋經濟史考 (三〇)	
演習 羽田	教授	東洋史の諸問題	二

西洋史

普通 原(隨)	教授	西洋史概説(第一部)	二
時野谷	教授	西洋史概説(第二部)	二
特殊 時野谷	教授	近代ドイツ植民史	二
原(隨)	教授	アリストファネスにみゆるアテナイの社會相	一
鈴木	講師	西洋中世史	二
岡島	講師	古代埃及史	二
演田	教授	歐洲考古學	二
演習 時野谷	教授	Oakes & Mowat; The great European treaties of the 19th century	
原(隨)	教授	ギリシア精神の傳承	二

史學研究法

普通 原(隨)	教授	史學研究法	一

地理學

普通 石橋	教授	人文地理學概説	二
中村(新)	教授	自然地理學概説	二
特殊 石橋	教授	水上交通地理	二
小牧	助教授	日本地誌に於ける地域區分	二
小野	講師	近世の地圖學	二
春本	講師	地形學	一
演習 石橋	教授	內外地誌演習	二
實習 石橋	教授	地理學實習	二

考古學

普通 演田	教授	考古學概説	二
特殊 演田	教授	歐洲考古學	二
梅原	助教授	東亞考古學	二
岡島	講師	古代埃及史	二
演習 演田	教授	考古學演習	二
實習 梅原	助教授	考古學實習	二

副科目

中村(直)	助教授	日本古文書學	一
藤	講師	史料講讀(令集解)	一
原田	講師	日本古代宗教 (三〇)	
宮地	講師	日本神祇史 (二〇)	

源講師　藤原時代の美術　二

花田講師　佛教學副科（唯識論を中心とせる支那及日本の佛教）　二

羽田教授　東洋史籍講讀　一

那波助教授　西洋史講讀　Ranke: Ueber die Epochen der neueren Geschichte　一

時野谷教授　地理學講讀
- (a) Otto Maul: Geographie der Kulturlandschaft　一
- (b) Ph. Arbos: L'Auvergne　一

小牧助教授　支那地理書講讀（前學年の續き）　一

宮崎講師　氣候學概論　（一五）

岡田講師　考古學講讀　二

濱田教授　英語
- Jones: English Critical Essays (20th century)　二
- English composition　一

中西講師

Hundley講師

伊中講師　獨語
- 關口存男著 標準獨逸文法　第一回　二
- Franz Werfel; Kleine Verhaltnisse　第二回　一
- Goethes Urfaust　一

雪山講師

伊吹講師　佛語
- 田島清著 新編佛蘭西語教科書　第一回　二
- Nisard: Introduction a l'histoire de la litterature francaise　第二回　二
- Noel Nouett: Paris depuis deux mille ans

落合助教授

田中教授　希臘語
- Graecae grammaticae rudimenta　第一回　二
- Xenophon: Anabasis, Liber I　二
- Homeros: Ilias, Liber I　第二回　二
- Platonis opera (哲學科講義)
- Sophokles: Oedipus Coloneus　一

波多野教授

田中教授

田中教授　羅甸語
- 新羅甸文法
- Caesar: De Bello Gallico, Liber I　第一回　二
- Cicero: In L. Catilinam, Oratio I　第二回　二
- Vergilius: Aeneis, Libri IV—VI　第三回　一

徐講師　支那語
- 最新官話談篇　第一回　二
- 現代小說　第二回　二
- 華語萃編
- 傅講師　偏林外史　第三回　二

十時講師　露語
- Yasugi: Grammateka rooskavo Yazika　第一回　二
- Totoki: Kniga dlya chteniya　第二回　一
- Chekhov
- Pushkin

黑田講師　伊語　新編伊語讀本　二

長田講師　教育學概論（哲學科講義）十一月（四〇）

柳田講師　民間の信仰　（三〇）

前評議員　内藤虎次郎博士　訃

本會前評議員、京都帝國大學名譽教授、文學博士内藤虎次郎氏は、昭和九年六月二十六日午後一時五分、病遽に革まり遂焉として逝去せらる。哀痛言ふところを知らず。博士の履歴功績その他は本誌次號に掲げ、哀悼の意を表する筈定である。

會　報

●會員移動

入　會

大阪府三島郡茨木町大字茨木七四四ノ四　村山修一氏（時野谷勝氏紹介）
廣島文理科大學東洋史教室　戸田茂善氏（鷲淵一氏紹介）
水戸市櫻小路二〇五六大錄龜之助方　高井悌三郎氏（岩城隆利氏紹介）
島根縣八束郡生馬村大字西生馬一七六　山本清氏
京都市左京區聖護院中町一清水方　清山玄氏
京都市左京區北白川平井町六九　藤島太一郎方　小澤吉見氏
京都市左京區吉田本町四木村方　平山久氏
京都市左京區吉田中大路三四ノ八櫻井方　永田蕾氏
京都市伏見區深草越後屋敷四一　松原茂平方　野末良平氏
京都市上京區塔ノ段松ノ木町三三二　千葉方　木越宏氏
大阪市北區相生町九六　稲葉慶信氏
京都市右京區吉田神樂岡町四　田中方　白濱大次氏
京都市左京區淨土寺馬場町一五三　今井市治方　宮崎克巳氏
京都市左京區下鴨芝本町二八　宮川尚志氏
京都市左京區田中上柳町二三　西野方　土井彬氏
京都市上京區衣棚通寺ノ内下ル木下突抜町常田健次郎方　久保次直氏
京都市左京區淨土寺馬場町二二　西井克己氏
京都帝大文學部西洋史研究室　中山治一氏
京都帝大文學部西洋史研究室　山内嘉夫氏
岡山市内山下九一　水野恭一郎氏
（以上臨見高年氏紹介）

轉　居

東京市澁谷區幡ヶ谷本町一丁目五十五番地　丸山二郎氏
三重縣龜山町東丸五一七　山本英雄氏
兵庫縣武庫郡住吉村甲南住宅　岩崎孫八氏

神奈川縣鎌倉町淨明寺區東泉水三一四鎌倉華園内　樋畑雪湖氏
臺南市明治町二丁目八八　荒木百花園　内田勘氏
京都市左京區一乘寺門口町　宮本方　岩田稔郎氏
京都市左京區吉田下大路町四五　小貫方　藤枝晃氏
愛媛縣立今治高等女學校　大内優德氏
東京市本郷區駒込西片町十番地はノ三號　齋藤隆三氏

退會

清水福市氏　佐伯昌夫氏

死亡　内藤虎次郎氏　謹みて哀悼の意を表す

●寄贈交換圖書目錄

世外井上公傳第四卷　井上馨侯傳記編纂會
岩波講座東洋思潮第一回　岩波書店
西洋中世史史料及考證四　東京商大内「西洋中世史史料及考證の會」

史學雜誌	四五の四、五、六	史學會
史學	一三の一第十二卷目次	三田史學會
青丘學叢	一五	青丘學會
國學院雜誌	四〇の四、五、六	國學院大學
歷史地理	六三の四、五、六	日本歷史地理學會
史迹と美術	四一、四二、四三	史迹美術同攷會
考古學雜誌	二四の三、四、五	考古學會
社會經濟史學	三ノ一一、四の一、二	社會經濟史學會
人類學雜誌	四九の三、四、五	東京人類學會
文化	一の四、五	東北帝大文科會
史潮	四の一	大塚史學會
史學研究	五の三	廣島史學研究會
龍谷史壇	一三	龍谷大學史學會
經濟論叢	三八の四、五、六	京都帝大經濟學會
哲學研究	一九の三	京都哲學會
信濃	三の三、四、五	信濃鄉土研究會
皇學	二の一	神宮皇學館々友會
社會學徒	八の四、五	社會學徒社
商業と經濟	一四の二	長崎高商研究館
南方土俗	三の一	南方土俗會
宗學研究	八	宗學研究會
Mitteilungen des Seminars fur Orientalische Sprachen an der Friedrich Wilhelms Univ. zu Berlin Jahrg. XXXXVI		Seminar fur Orientalische Sprachen